

大阪大学 吹田市との連携事例

自治体の課題(ニーズ)



保育園は、乳幼児が長時間、濃厚に接触することが多いことから、子供の健康を守るために徹底した感染症対策を実施している。

しかし、感染して症状が現れるまでの潜伏期間に感染が広まることは避けられない。また、個々の病原体の性質を踏まえた感染対策など、感染症の専門的知識を要する対応を保育園で実施することには限界がある。

より早期に感染の兆候を知り、更に病原体の特定ができれば、感染予防、感染拡大への対策を現場で効果的にとれることが期待される。

研究成果(シーズ)の還元



感染症モニタリング研究のためのフィールドを提供していただけた自治体を探していたところ、吹田市との連携が実現した。

現在、吹田市の複数の保育園の協力により、保育園直下の下水を採取し、園内の感染症の状況と紐づけて感染状況をモニタリングしている。

今後、メタゲノム解析による網羅的な病原体探索の手法を確立し、網羅的な感染症流行検知システムの構築を目指している。

この連携に携わった研究者



微生物病研究所
元岡 大祐 講師

(研究者の経歴)

大阪大学微生物病研究所講師、(兼)バイオインフォマティクスセンター ゲノム解析室講師

研究分野:病態検査学,感染症内科学

令和4年度大阪大学賞。令和5年度文部科学大臣表彰研究支援賞

幅広い分野の研究者に対して技術的な研究支援も行っている。